



空気が澄みわたり金木犀の香りが心地よい季節となりました。

先月は「お祭りごっこ」へ参加くださりまして、ありがとうございました。子どもだけでなく、保護者の皆様の笑顔を見ることが出来たのは、私たちにとって大きな財産となりました。今後もより一層、子どもたちの毎日が笑顔あふれるものになるように頑張っていきたいと思っております。

さて、今月は「運動会ごっこ」を予定しています。お子さんの成長を感じながら楽しく過ごせる時間を作ろうと、職員一丸となって進めていますので、ぜひ皆さまご参加ください！



※ミサオスタジオさんが撮影した「お祭りごっこ」の様子の写真販売について hugnote に「お知らせ」を配信しています。とても素敵な写真がたくさんありますよ！ぜひご覧ください。



行事予定

- 11日(火) 身体計測
- 18日(火) 歯科検診
- 20日(木) 健康診断
- 26日(水) お弁当日
- 29日(土) 運動会ごっこ

10月のお弁当日

26日(水)です。

お弁当と食具を持たせてください。
飲み物・おやつは園で準備いたします。

歯科検診について

18日(火) 9:30~
歯科検診を行います。
当日は緊急の場合以外は出席していただきますようお願い致します。

お願いします！

- 薄着を心がけましょう！
朝晩は気温が下がり、どうしても長そでを着たり厚着をしたりしがちですが、子どもたちは活動が始まると体温がすぐに上がり汗をかきます。上着で調節するなどし、活動しやすい服装を心がけましょう。
- 靴のサイズは大丈夫？
サイズが大きすぎる、つま先が靴にあたってしまっているなど、子どもの足に合っていない靴を履くと、靴に合わせた足の運びになり、転倒する等事故につながる恐れがあります。戸外活動が盛んな時期ですので、今一度靴のサイズのチェックをお願い致します。
- hugnote の閲覧をお願いします！
配信後、未読のままの方がいらっしゃいます。皆様に知っておいてもらいたい内容を配信していますので、ご確認いただきますようご協力をお願い致します。



対話による子どもの育ち（1）

キッドワールド総合園長 牧野 桂一

最近では、ロシアによるウクライナ侵攻や「旧統一教会問題」等が頻繁に報じられ、社会的な問題が身近に感じられ、政治への関心が高まっています。

このような社会的・政治的課題の中で、「嘘がまかり通る」「相手の話を聞かない」「一方的に偏ったことを主張する」「責任逃れをしてきちんと説明をしない」ということが普通になってしまい、一部の人に「嘘つきは政治家のはじまり」等と揶揄されるまでになっています。そして、そのことが、現在の子育てや教育の問題にまで広がってきているのです。



どうしてこのような人間としての基本的なことを間違ってしまう人間が育ち、戦争を起こしたり社会を混乱させたりするような行動が普通になってしまったのかと考えると、保育や教育という仕事に関わる私たちとしても深刻に受けとめざるを得ません。

日頃、子どもたちとの生活の中で、「嘘をつかない」「人の話を誠実によく聞く」「自分のしたことには責任を持つ」「相手に理解して貰うように丁寧に説明する」ということを大切に、
「みんなで一緒に幸せになる」ことを目指してきた私たちの営みが、いまの社会の中では、おなしく思えるようなこともあります。

しかし、「嘘がまかり通る」「相手の話を聞かない」「責任逃れをして説明をしない」、つまり「自分の考えが全てで、自分の都合が一番」という行動や性格の基盤は、心理学的に見ていくとその大半が、乳幼児期に形成されるという実証的な研究もあります。したがって、このような大人にならないための保育や教育を考えることは、乳幼児期の子どもの育ちに関わる私たち大人としてもとても大切な問題になるのです。

全ての人が、幸せを共有して生きていくことが出来る生き方を構築していこうとするならば、自分の考えだけを押し通して、他人の考えを認めないということは、おそらく成り立たないと思います。しかし、実際には、他国に侵略して人々を殺し、幸せを踏みにじってしまうような国が存在し、自分の国だけ豊かになればいいという考え方や生き方をおし通ししようとする国があるのが現実です。



私たちの住む一般の社会の中では、いろいろな人がいて、様々な価値観を持ち、それをお互いに大切にしながら自分の主張も行う。つまり主体的ではあるけれども、自分と異なる他者と協同的に生きることが出来る社会を目指すことが求められています。そういったことを、人格の基礎ができる0歳から6歳までの大切な時期の育ちを通して、どのように行っていけばいいかということ改めて考えていくが必要になっていると思います。

このような問題の一つの切り口として、私たちのこども園・保育園では、子どもと周りの大人が関わる人間関係の問題、あるいは保育における対話の問題として考えてきました。

赤ちゃんが保護者や保育者と対話します。保護者や保育者は子どもの気持ちを理解し、それに応答的に返していきます。そういう関わり方の積み重ねで、子どもは大人の気持ちを自分の



中に取り込むことができるようになります。そのようにすることによって、1歳半ぐらいまでに、子どもが外の世界に興味・関心を持つようになっていきます。そして1歳半から3歳ごろになると子どもの中に自我の世界が育ち、それが徐々に確かなものになっていくのです。

このような時期に当たる2歳児というのは、回りから見ていると手に負えないくらいに自己主張が強くまさに自我の塊のように見えます。そのことを「イヤイヤ期」等という人もおり、相手をするのがどうしても難しくという人が沢山います。「僕はこうしたい」と言いだしたら、それ引っ込めることなく、自分のしたいことにこだわり続けます。ですから、対応がすごく難しくなるのです。

そのような子どもたちに対して、経験の深い保護者や保育者ならば、せっかくなご飯を「嫌いだから食べない」というように意固地に主張したとしても、それをきちんと受け止めることができます。どんなわがままに見える自己主張も、「ああ、あなたは自分のしたいことを言えるようになったんだね」と言いながら、どこまでも受容的に受け止めていくのです。このことは途方もなく難しいことですが、子



どもの周りの大人にとっては、必要不可欠なのです。そのように子どもを受け止める子育ての感性が、子どもたちが様々な人と共生して生きていけるような生き方を育てていくことになり、「嘘をつかない」で、「人の話を誠実によく聞く」ことができ、「自分のしたことには責任を持ち」「相手に理解して貰うように丁寧に説明する」ことができるような人間としての基礎を育てていくのです。

今回は、字数の関係で具体的な子育てや保育については、最初の2歳児までの対応しか述べられませんでしたので、次回に、その後について、順を追って説明していきたいと思います。



今回は子どもが育つ過程において、乳幼児期がいかに重要か、ということが世界情勢を踏まえて書かれていました。世界中での子育てにおいて、それぞれの国において違いはあると思います。しかし、乳幼児期の大切さは共通しているのではないのでしょうか。

今私たちの目の前にいる子どもたちが、大人になり、世界に羽ばたくときが来るかもしれません。

その基盤を作る、大切な大切な乳幼児期。

その時期の子どもたちと過ごしていることが、どれだけ貴重なことであるのかと、改めて感じています。

園児一人一人が、どんな場所でも自分を見失わず、人を大切に、愛情をもって生きていける人間に成長してほしいと、一保育者として願います。

